

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-025	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Long-term alcohol intake and risk of endometrial cancer in the Nurses' Health Study, 1980-2010. Nurses' Health Study1980-2010 における長期的アルコール摂取と子宮体癌リスク</p>		
執筆者		
Je Y, DeVivo I, Giovannucci E.		
掲載誌		
Br J Cancer. 2014 Jul 8;111(1):186-94. doi: 10.1038/bjc.2014.257.		
キーワード	PMID	
長期的アルコール摂取、子宮体癌、前向き研究	24853180	
要 旨		
<p>目的： これまでの疫学研究では、アルコール摂取と子宮体癌リスクの関係は一致しない結果であった。しかし、多くの研究では、アルコール摂取の調査をがん診断後あるいはベースラインのみとしていた。</p> <p>方法： Nurses' Health Study の参加者のうち 1980 年時点で 34-59 歳の女性 68,067 名においてアルコール摂取と子宮体癌リスクとの関連を前向きに調査した。アルコール摂取は適切な食事調査を用いて数回調査し、個人の長期的な摂取量を示すため累積平均アルコール摂取量を算出した。Cox 比例ハザードモデルを用い、いくつかのリスクファクターで調整後の子宮体癌リスクの発症率(RRs)および 95%信頼区間(CIs)を推定した。</p> <p>結果： 1980-2010 年に 794 件の浸潤性子宮内膜腺癌が診断された。アルコール非摂取者に比べ、アルコール摂取者(多変量 RR=0.81; 95%CI: 0.68-0.96)では負の関連を認めた。5g/day 未満の少量摂取者では子宮癌リスクは 22%低かった(多変量 RR=0.78; 95%CI: 0.66-0.94)。しかし、多量摂取者では子宮癌リスクにより良い影響を与えなかった; 1 日;摂取量が 5-14.9g, 15-29.9g, 30g 以上の 0g に対する多変量 RR は、0.88, 0.83, 0.78(95%CI: 0.49-1.25)。5g/day 未満摂取者のうち肥満者においてリスクはもっとも低かった。しかし BMI との有意な相互関係は認めなかった。</p> <p>結論： 複数回の食事調査によるアルコール摂取評価を行った本研究の結果から、長期的な軽いアルコール摂取(1 日 1/2 杯未満)は、有意ではないものの子宮体癌リスクを減少させる可能性を示唆した。</p>		